

## アルス国際製靴学校研修体験記

内田製靴株式会社 岩田 朗  
クラウン製靴株式会社 堀内 友博

### I イタリア研修体験記

内田製靴株式会社 岩田 朗

9月21日から約3ヶ月、ミラノにある製靴学校で10年ぶりの学生生活を体験してきました。授業のカリキュラムは月～金 9:00～17:00 講義、実技と続きます。しかも毎月曜は紙型のテストがありました。

クラスは、2クラスあり、私のクラスは、18名、母国は日本、イタリア、ドイツ、カナダ、アルゼンチン、中国。もうひとつのクラスは、アメリカ、メキシコ、イスラエル、オランダなど世界中から集まっていました。

先生であるルナティ氏は、イタリア人でなんと御歳83歳！とてもそんなお歳には見えないほどお元気でした。授業は主に紙型と紙アッパーを作っていくのですが、会社でのやり方とはまったく違いました。紙型経験のある私ですが「ゼロからスタート！」と気持ちを切り替えて授業に臨みました。授業の進め方は、まず先生がデザイン面から紙型まで手本を見せてくださったので言葉のできない私にもなんとかこなす事ができました。

製靴学校での講義は作業行程を基礎からしっかり学べるとても有意義なものでした。そして何よりもこの研修によってイタリア人他、多くの外国の友人ができ、文化の交流ができたことは私の人生において貴重な財産になりました。あっという間だった3ヶ月、「帰りたくない！」というのが本音でしたが、それほど毎日が充実していたということです。この機会を与えてくださったこと、本当に感謝しております。



### 今後派遣される方へ

#### 「宿舎」

レジデンスは学校のある建物と棟続きの建物です。フロントには24時間管理人がいて、電話の取り次ぎ（内線、外線）、郵便物の受け渡し、タクシーの呼び出し等をしてくれます。部屋は、一人部屋がシャワー付、キッチン無し、二人部屋がバス付キッチン有り、全室にトイレ、テレビ、冷蔵庫があります。キッチンには食器と調理器具がそろっています。月曜日～金曜日まで毎日、掃除とベッドメイクをしてくれ、月・水・金と週3日タオルを替えてくれます。トイレトーパーも使うと補充してくれます。部屋にはエアコンが付いていますが稼働するのは11月にはいつからです。コンセントは日本とは電圧が違うため変圧器と、部屋によってコンセントの形状が違ったりするので、アダプターもあったほうが良いと思います。

#### 「交通」

列車は日本に比べ、とても安い！特に25才以下にはさらに割り引きがあります。地下鉄、トラム(路面電車)、バスは切符が共通で、売店や「ATM」のステッカーの貼ってあるタバッキ

で買えます。1回券1,500リラ、10回券(カルネ)14,000リラ。最初に刻印してから75分間は乗り継ぎ自由です。

#### 「両替」

レートや手数料を考えると、銀行がいいらしいです。街の中心部に両替所がありますが、場所によって様々です。トラベラーズチェックは銀行によって両替してくれないところがあるので注意してください。私は今回、海外で日本の銀行口座から引き出しができるカードを持っていきました。キャッシュディスプレイは街の至る所に有るので大変便利です。たまに、使えない機械もありますが、24時間使用できます。

#### 「その他」

レジデンスに到着する前にミネラルウォーターは買っておいたほうがいいでしょう。夜遅くに到着すると店は開いていません。

2日目は、ドゥオモの横、又は中央駅内に有るインフォメーションに行って地図をもらうなど情報収集をするといいいでしょう。

#### ◎研修内容

研修期間：2000年9月25日～12月25日

研修場所：ARS SUTORIA

講師：LNATI ADRIANO

講義事項

○テクニック(紙型技法及びそれらのバランス、数値設定の把握)

- ・ラストに正確なセンターラインを引く方法、各種の基本紙型の製作
- ・クラシックデザインの基本的なパターン(Derby、Oxford)のラインの書き方など紙型による展開方法
- ・非対称デザイン
- ・モカシンの基本パターン(一般的なモカシン、フクロモカの紙型製作方法)
- ・ブーツの基本パターン[ロングブーツ(フィッティング、ルーズ)、アングルブーツ、ショートブーツの紙型製作方法とその数値設定]

○理論(靴及び靴製法に関する様々な知識の習得)

- ・サイズ比較表
- ・ラストのプロポーシオン(各部名称及び数量設定を求める計算方法)
- ・インターナショナルサイズ(French、English、American)表示別のサイズ換算法とその換算
- ・靴雑感(アッパーエッジの処理方法と名称)
- ・裁断方法(裁断方向と各パーツ別の裁断部分について)
- ・革について(種類及び用途、なめし方の説明、面積計量及びその計算と種類)
- ・靴製法(種類別による説明、特徴、用途及び留意点)
- ・足と靴(主要部分の名称、基本的な足の分類)
- ・足長、足囲(グレーディングについて、French、English、Americanのラスト、ウイズ、アッパー中底の数値の違い)
- ・その他(補強方法、踵部分の素材別による処理方法)

#### ◎卒業試験

- ・1日目、筆記試験：英語又はイタリア語の試験問題が配られる。授業中にあらかじめ作っておいた、A2サイズくらいのファイルに理論をまとめていく。記述は母国語でOK。
- ・2日目、技術試験：最初に生徒それぞれが、紳士靴か婦人靴かを選択し、先生が人数分のデザイン画を用意し2クラス合同でくじ引きが行われる。くじで引いた番号のデザイン画をもらい紙形から紙アッパー(甲、裏)を作り、デザイン画を書いた封筒にいれ提出。
- ・最終日、面接試験：面接会場、3階。面接官、ルナティー氏を含めて先生3人、ルナティー氏の教え子2人の計5人。二人一組で行われた。その際、筆記試験のファイル、クラシックモデル4点の袋、最後の抽選でやった袋、授業で提出した袋17点、そのデザイン画の袋、卒業製作を持っていく。提出物のチェックが行われ、最後に理論に関する質問が出され終了。

## ◎研修の効果

イタリアは靴の本場ということもあり、この学校には国内だけでなく世界中から生徒がやってきます。勉強だけでなくいろんな国の人と生活を共にしていくことは文化交流という面においても非常に興味深く、我々、日本人にはない感覚を感じ取れるいい機会でもありました。

3ヶ月間仕事を離れ、集中して型紙の基礎や靴に関する知識を学べたことは、これから仕事を続けていく上で大変貴重な財産となりました。

ルナティ先生が長年の経験を元に作り上げた「ルナティシステム」と呼ばれる型紙のおこし方は、普段自分がやっている方法とは違い、初めて型紙を教わる者ばかりでなく経験者にも大変画期的な方法でした。今回学んだこの方法は、経験と勘に頼らなくても、面白いほどにスピーディーに、正確に型紙を作ることが出来ました。

婦人靴の他、紳士靴、子供靴と通常、業務で自分が関わらないタイプの型紙をおこすことによって知識の幅も広がり、このシステムを使うことによって大差なく型紙がおこせることは大変な自信になりました。

普段、上司等から紙型など仕事を教わるときは仕事の流れの中で教わることが多いと思いますが、そうなると仕事をこなすためのテクニックばかりが先行し基礎的なことが身につかないままになってしまいがちです。そのような時に3ヶ月間、靴の本場であるイタリアで学べるということは基礎知識の確認、技術の向上、自分に対しての再発見ができる絶好の機会です。基礎知識の無いものが技術を継承していくことは難しいでしょう。将来的に業界に貢献していくためにも、この派遣事業は、今後も是非、継続して頂きたいと思えます。

## 最後に…

今回、海外派遣事業に参加するにあたり御協力、お手伝い、アドバイス等いただいた皆様、本当に有り難うございました。

## II 研修体験記

クラウン製靴株式会社 堀内友博

今、研修を終えて授業の初日のことを思い出すと、クラスメイトとも顔を合わせるのが初めてで、お互いに新鮮な出会いをしたことを覚えています。

イタリア語の方は、日本で少しだけ勉強しただけで、イタリア人と会話をできると言ったものではなく、話したいことは山ほどあるにもかかわらず、伝えることができない悔しさを感じていました。

授業はイタリア語と英語を少しまじえて行われ、私自身、英語は理解できたので言われたとおりに授業について行くことができました。

1ヶ月も経つと、クラスの進みも理解でき、自分のペースで講師ルナティ氏の紙型システムを学べるようになりました。又、クラスメイトとも溶け込むことができ、お互いに助け合って内容を理解するようになりました。

最後の1ヶ月ぐらいになると、ほとんどの基本モデルの紙型は終了し、進みもスピードを上げて数をこなすようになりました。

最後の2日間は筆記と実技のテストが行われ、今まで3ヶ月間行ってきたモデルのもっとも基本型、数点の型紙を立てるというものでした。

イタリアは素晴らしく、私にとっては2度目の訪問でした。

1度目は旅行でイタリアの数都市を回って、見ただけのものでした。

しかし、今回は3ヶ月の滞在ということで、イタリアをいろいろな視点で見ることができました。第一に、クラスメイトのイタリア人を見ると誰もが遊びとおしゃべりが大好きな人達ばかりで、実際の所、クラスメイトだけでなく、イタリア人そのものがこの様な感じでした。しかしながら、一番印象に残り感心したことは、彼らは非常に勤勉で会話の中にもうまく授業内容の話を取り入れて、ただのおしゃべりでなくその中にも確かな意味を持ち、お互いに復習し合っている様に思えました。そこにイタリア人の賢さをすごく感じさせられました。

又、私がイタリア人の友人の実家を訪れた時に、イタリア人の家族の豊さをもっとも感じさ

せられました。

豊さとは父親、母親、兄弟、親戚までもが心が通じ合い、お互い好き勝手なことを言える仲間ということなのです。

誰もがおしゃべりが好きで、誰もが会話の中心になれるということなのです。

日本ではあまり彼らの様に家族で会話をもっていないのではないのでしょうか。それゆえ、日本人は口べたな人が多いのではないのでしょうか。この習慣の違いが、イタリア人の表情豊かで人懐っこい所とおしゃべり上手で賢い所を生んでいると思います。

3ヶ月の研修を終えて私はこの期間に多くの貴重な体験をしました。

それは日本人だけでなく、イタリア人、又は他の国の人も友人関係を持つことができたことです。しかも、同じ靴という共通の課題をお互いに抱えていることが私には貴重なことに思えます。

彼ら友人達からこの3ヶ月に多くのことを学び、又、以前と違った視点で物事を見れるようになりました。授業で教わったことも、講師ルナティー氏の確立された方法は紙型、靴を作る上でもっとも基本的なものであって、どのモデルにも応用することができます。これらは私にとって大きな財産になったと思います。

今後はこのイタリア研修で得た貴重な3ヶ月の経験を生していきたいと思います。イタリアのデザインの優れた、個性的な靴を直に見れ、日本よりはるかに長い靴の歴史を持ったイタリアの確かな技術を学ぶことができたこと。これらは日本の靴企業にもっと取り入れるべきものではないのでしょうか。しかしながら、ただのコピーを作るのではなく、日本の独特な個性を生かした優れた靴を作らなくてはいけないと思いました。

技術をイタリアなどで学び、独自のデザインが生かされるように、その技術を試行錯誤して作り出す。これができた時、日本の靴の素晴らしさを世界に知らせることができるのではないのでしょうか。

私はこの研修をきっかけに視野を日本だけでなく世界に向けていきたいと思っています。世界には、日本にないあらゆるものがあります。日本

には見れないものが、見れます。文化の違い、習慣、靴の違い、それらが私の発想に結びつき、個性になると思います。

私自身の為にも今後もたくさんの方のことを学び優れた物作りができるように努力していきたいです。

## 講義内容

### 1) 授業スケジュール

月～木 9:00～12:00 (午前)

13:30～17:00 (午後)

金 9:00～12:00 (午前)

13:30～16:00 (午後)

土・日 休日

### 2) クラス編成 (18名)

- ・日 本—7人 ・イタリア—6人
- ・中 国—1人 ・スイス—1人
- ・ドイツ—1人 ・アルゼンチン—1人
- ・カナダ—1人

### 3) 授業の進行

毎週、月曜日午前中にタイム・トライアルテストが行われます。先生から用意されたデザイン画や写真などから、スタンダードをおこし、紙アップパーを作成します。その後、先生によってモデルを確認され、それぞれの終了時間を記入されます。そして、作成したモデルを封筒にデザイン画と共に入れ、名前を書いて提出します。一回のタイムトライアルテストは通常3点ぐらいで、難しいものだと、午前中では終らず、午後までかかる場合もあります。

又、実技の中で特に先生が指定したデザインなどは、Bustaと言われる封筒にモデルの原型(表裏)、紙アップパー、ライニング、裁断型(アップパー、ライニング)とデザイン画を入れ、氏名、日付、木型名などの情報を記入して提出しました。

私達はこの3ヶ月で約20点程のBustaを作成しました。

**紙型** ~ もっとも基本的なクラシックモデルを前半に行い、序々に応用デザインが行われました。3ヶ月でほとんどのモデルを行いました。

基本モデル：・Derby (外羽根)・袋モカシン

- ・ Oxford (内羽根) ・ サボ
- ・ Court Shoe
- ・ Savdals
- ・ Moccasin
- ・ elastic
- ・ Boots

#### 講義 (製靴理論)

1. ラストプロポーション (測定方法、基本数値算定方法など)
2. インターナショナル・サイズ (French、English、American、センチメートル)
3. 製法 (グッドイヤー、ミックス、イデアルなど)
4. 革一革の種類と特徴
  - 裁断方法、型入れ
  - 革の測定単位
  - なめし

#### リニアペレ視察

イタリア、ポローニアのリニアペレといえば、靴に携わる人なら誰もが知っているであろう、重要な展示会で、各国の業者が集まるだけあって、会場も大きく、人も多くいました。

リニアペレは毎年2回、春と秋に行われ、新素材、新型の木型、アクセサリなど底材、美錠、あらゆる靴、バック、革製品に関するものを見学することができます。

今回はたった一日だけの視察だったので、もちろん全部を見ることは不可能でしたが、目についた面白いものだけを中心に見て回りました。

回って見て思ったことは、たとえば多くの底材会社の底材は似たり寄ったりで、PRADA、GUCCI などの高級ブランドで使われる底材のコピーなどが多くあるということです。

一方では新しいテイストをもった型や素材を使ったものもあり、デザインの多くの可能性を感じさせられました。

デザイナーによっては、この展示会で新しい素材、色、型を見つけ、イメージを膨らませることができると思います。

私自身、新たに知った素材などもあって、勉強になりました。又、靴関係の友人にも、この機会に会うことができ、このアルス靴学校で共に学んでいる友人とも数年後にお互い会える

機会の場になりそうです。そこでの情報交換など、重要になってくるでしょう。

#### 市場視察

ミラノは最新ファッションの発信地と言われ、世界中の人々が常に注目している場所です。確かに、モンテ・ナポリオーネと呼ばれる高級ブティック街、又はその周りには多くのブランド・ショップが立ち並んでいます。ウィンドウ・ショッピングを楽しんでいる人々も、回りを意識して自分自身をそれぞれの好きなもので着飾り、個性を主張して、ファッションを楽しんでいます。

又、一番印象強いことは、イタリアには靴屋が非常に多いということです。イタリア人にとってはこれが普通なのかもしれませんが、私にとっては多いと思えるぐらい見つけることができます。さすが、「イタリア」と言っていていいでしょう。

昔、私達日本人は靴を履かずに下駄を履いていました。それが今では下駄を履かずに靴を履いています。しかし、イタリア人、又はヨーロッパの人々は日本人より遥に昔から靴を持ち、今なお型は違うにしても靴を履いています。その違いが、情報化の進む今でも日本人とイタリア人、ヨーロッパの人々との間に靴に対しての意識の違いとして確かに存在するように思えます。

靴屋が多いということだけでなく、靴を買う時でも、彼らは自分に合っているかどうかを歩いて確かめます。デザインだけでなく、機能性も重要視し、時間をかけて決断します。日本の女性、特に若い女性はデザインを重要視して、機能性は、二の次に置く人達が多くいます。よって、現在多くの日本の女性は靴によってできた、足の障害に悩まされています。

しかし、私が見た範囲ではイタリア人の足は変形がなく、綺麗な足をしています。当り前ですが、この当り前に驚いてしまいます。それは作る側と買う側お互いがどういうものが良いかを知っていて、靴を常に身近な存在だと意識して生活しているからだと思います。

最後にこの派遣事業の為に協力してくださった方々に非常に感謝しています。ありがとうございました。